



としよかんぽう
42

Tohoku Fukushi University Library News



BOOK REVIEW

『自註鹿鳴集』

会津八一 作
岩波書店・1998

研究活動やゼミ旅行などで、近世以前の日本美術作品を目的にさまざまな場所を訪れますが、中でも繰り返し足を運びたくなるのが奈良です。飛鳥時代から奈良時代にかけて都がおかれたこの地には、歴史的建造物も多く、荘厳な空間のなかで息をのむような仏像が出迎えてくれます。いつの頃からか、自分の奈良の旅のお供になったのが会津八一の歌でした。

会津八一は平仮名のみのかち書きによる作歌を特徴としており、声にだして口ずさむ時の心地よさは格別です。例えば、法隆寺夢殿の救世観音を詠んだ歌を紹介します。

あめつちにわれひとりゐてたつごとき
このさびしさをきみはほほゑむ
(天地にわれ一人居て立つごとき この寂しさを君は微笑む)

会津八一の
歌とめぐる
奈良のみほとけ

法隆寺は推古天皇15(607)年に聖徳太子が建立したと伝え、その敷地にある夢殿は、太子が法華経の解釈に迷ったときに夢で「金人」が現れ教えを授けたという伝説にもとづく八角形のお堂です(余談ですが、本学の体育館兼食堂の福聚殿はこの夢殿を模した形になっています)。夢殿の本尊救世観音は飛鳥時代(7世紀)に制作された木彫像ですが、明治期に調査が実施されるまで長らく見ることを禁じる秘仏とされてきました。表面の金箔がよく残り、眼を見開いて口唇の両端を吊り上げる、いわゆる古拙の微笑みは神秘的な表情をみせ、時に近寄りがたく感じるかもしれません。

この歌の意味は、天地の間にたった一人で立っているかのようなこの寂しさを、あなた(救世観音)は超然として微笑んでおられる、というもの。「われ」とは、作者である八一であり、かつ救世観音でもあります。八一のいう「さびしさ」の解釈は、人によって異なるでしょうが、その中で自分は、学問に対する真摯さゆえの「さびしさ」が救世観音に投影されているのでは、とイメージしました。孤独を受け入れ、まっすぐに対峙する姿の何と潔く美しいことでしょうか。

一方で、中宮寺の本尊を詠んだ次の一首には、限りなく優しく、愛しいものへ向けるまなざしを感じます。

みほとけの あごと ひち とに あまでらの
あさの ひかりの ともしきろかも
(み仏の顎と肘とに尼寺の 朝の光のともしきろかも)

中宮寺は法隆寺に隣接する尼寺で、聖徳太子の母である穴穂部間人皇后のために、その宮を改めて寺としたと伝えます。本尊は飛鳥時代(7世紀)の半跏思惟像(伝如意輪観音)ですが、2020年11月から翌年1月にかけて宮城県美術館で開催された「東日本大震災復興記念 奈良・中宮寺の国宝展」に出陳されたので、間近にご覧になった方がいる

教育学部教育学科

准教授 門脇 佳代子

かもしれません。一木造で、わずかに彩色が残りますが、現在は光沢ある黒褐色を見せています。肘をついた右手の指先が顎に触れる「考える人」のポーズですが、その表情は明るく、穏やかな微笑みを浮かべています。

歌の意味は、半跏思惟像の顎と肘のあたりに、この尼寺のかすかな朝の光が射して、なつかしく心ひかれる、というもの。ハ一の注釈によれば、この像のブロンズと見間違ふ艶やかな光沢は、尼僧たちが布巾などでしきりに仏像をぬぐっていたために偶然生じたものといえます。心をこめて仏に仕える尼僧の行いもまた、尊く思われます。

ところで、現在の中宮寺本堂は昭和43(1968)年に落慶した、吉田五十六(近代数寄屋建築で知られる建築家)の設計による鉄筋コンクリートの耐火建築です。平安時代の寝殿造りを模しており、池に囲まれた浮御堂をイメージして作られました。ハ一の見た情景とは異なりますが、開放感のある堂内で仏像と向き合う時間は至福です。

会津ハ一は歌人や書家として知られる一方、美術史家としても重要な仕事をしました。独学で東洋美術を研究して『法隆寺法起寺法輪寺建立年代の研究』で文学博士となり、また早稲田大学で教鞭をとり多くのすぐれた門下生を輩出しています。『自註鹿鳴集』は昭和28(1953)年に刊行され、注釈部分には文語体を用いているため少し読みづらいかもしれませんが、歌人と美術史家という二つの顔を持つハ一ならではの鋭い感性と深い教養は、奈良の仏像めぐりをますます魅力的にしてくれることと思います。



「正直」論の歴史

History of the Theory of “Honesty”

きたいとしお
図書館長 鍛代敏雄

諸橋徹次著『大漢和辞典』(大修館)「正直」は、「書経」洪範などの漢籍を引いて「ただしくなほい。こころがまつすぐで偽りよこしまのないこと。」と語意を載せる。最大の国語辞書『日本国語大辞典』(小学館、以下『日国』と略)「正直」の項は「うそやごまかしのないこと。かげひなたのないこと。すなおで正しいこと。また、そのさま。」とある。辞典の凄味は、その用例にある(佐藤宏編『50万語を編む「日国」松井栄一の記憶』小学館)。『日国』は「本朝文粹」や「源平盛衰記」などの出典をあげ、俚諺を載せる。正直の頭に神宿る、正直の儲けは身につく、等。ついで『岩波仏教辞典』(岩波書店)を紐解くと、鎌倉末期から「神本仏迹」が台頭し「正直・清浄を根本(本地、主)にすえ、代表的な仏教倫理である慈悲を垂迹(従)とみなす」ところの「典型的な日本倫理」を説く。また『現代倫理学事典』(弘文堂)は中世前期に「正直がとくに重要な徳目」となったとし、ひとしく北畠親房「神皇正統記」や伊勢神道書「豊葦原神風和記」を引用し精神的な規範を論じる(歴史学や社会学の辞典類には正直は立項されていない)。拙著『神国論の系譜』(法藏館)を発表して以来、中世日本を中心に正直の史料を集めてきた。正直を語る地平はもっと広いようにおもわれるので、紙幅を借りて少し紹介してみたい。

「セイチョク」から「ショウジキ」へと、真音読みが落ち着く頃、ちょうど古代から中世への転換期に編まれた「今昔物語集」(岩波日本古典文学大系・覚一本)に関し、『今昔物語集自立語索引』(笠間書院)で「正直」を検索すると、12例が確認できる。なかでも興味深いのは、「往生要集」を書いた源信(恵心僧都)の父を仏道の心はないが正直者と語り、母は極めて道心の深き人であったと評した点。すなわち正直と仏心が結晶して聖人が誕生した物語だ。「源氏物語」の柏木や宇治十帖に登場する篤信者、母思いの比叡山延暦寺横川の僧都は源信がモデルのようだ。

曹洞宗の祖師道元も正直にこだわった。根本宗典「しょうぼうげんぞう正法眼蔵」べんどうわ弁道話に見える。曹洞宗門のしょうでん正伝、始祖しそ達磨から正しくひと筋すじに伝えられた正直の仏法は最上の教えである。ぜんちしき善知識（善法を導く仏道者）の宗祖のはじめより雑多な作法や修行は用いず「只管打坐」（ただひたすら坐禅）し、「身心だつごく脱落」する（むが無我の本性にもどる）ことを得る、とある。真っ直ぐな心持ちは、まじょう懷奘の「しょうぼうげんぞうずいごんき正法眼蔵随聞記」第三（和辻哲郎校訂、岩波文庫本）にも確かめられる。「曲節」（心がねじ曲がっていること）に対置された「正直」が、果報（現世の幸福）と家の存続を招来する根拠とされた。法華経の「しょうききせはほうべん正直捨方便」に執心した日蓮、浄土真宗や時宗などの念仏門でも、正直の信心が諭された。

道元禅師の父は内大臣久我通親、村上源氏中院流の久我家は、太政大臣まで昇進できる清華家、源氏長者として一族を統率した。朝廷が天下国家に平和を宣言する勅会・石清水放生会の上卿を勤めた。氏神社の石清水八幡宮は、清和朝に大分の宇佐宮から八幡大菩薩を勧請し創建された。「大菩薩は正直の頭を棲とし」の宇佐神託は有名。鎌倉末期に石清水で編集された「八幡愚童訓」は釈迦が八幡大明神となって救済すると説いた。正直なる信心により神が頭に宿れば、悪鬼は退散して、あらゆる宝物を得ることができる、と。「八幡愚童訓」不浄事の項では、外側からの淫欲・肉食・触穢だけでなく、神慮への不信により心の内面から発生する「不浄穢心」を戒める。だから、逆に正直に修善して神慮にかなえば、清浄の人となり穢をしりぞける、といった「正直」論がうかがえる。穢の呪縛からの解放と心身の救済をもたらす言葉となった。

鎌倉幕府の連署・北条重時「ごくらくじどのごしょうそく極楽寺殿御消息」と、戦国大名の魁・北条早雲（伊勢宗瑞）「せいそうずい早雲寺殿廿一箇条」は、武家の家訓として著名。仏神の前では正直の心をもって崇め敬うこと、徳をもって正直に生きれば子孫繁盛、現世を無欲にして正直に生きてこそ後生の往生が叶う。心を素直にして敬いと憐れみのありのままの心持ちで神仏の加護を受ければ、天道に見放されない、と。戦国期の教訓書「せきやうしやう世鏡抄」（別称「しょうきしやう正直抄」）では、正直とは曲がる心を直し、善を善とし悪をば悪と見なす態度のこと。正直はすべての本質、子どもの躰は14・5歳までは曲がる心を直すこと、訊かなければ打擲（なぐる）してよい。だが16・7歳になれば詞をもって教導することが肝要だと、道徳的な教育論を吐露する。

兼好法師『徒然草』217段・大福長者の話は、正直に約束を堅く守れば必ず富が来るといい、いっぽうで際限のない強欲を諷めている。延文6年(1361)の「市場之祭文」(「武州文書」という市立ての願文は、商業倫理を考える上で重要だ。正直な政事と正直な率法(課税率)が市場の安全を守り、売買の徳利と富貴を招くと語る有徳論。守護神の市姫と本地仏の大日如来への正直なる信心をもって、利潤を追求する商売の正当性が保障された。商人への被賤観を払拭する商業倫理は、「正直」論によって裏打ちされた。イスパニア商人アビラ・ヒロンは「日本王国記」のなかで、長崎の町組の親方(年寄)らは、町内への入居者について、正直な男であることを証明できる保証人を出させたと記す。与風、学生時代に名画座で観たモダンタイムスを思い出した。失業中のチャップリンに就職を斡旋する法務官の推薦状のクローズアップ *"an honest and trustworthy man"*(正直で信用できる男)

では、中世日本で正直を語る理由は何か。①徳行と人格の規定、②帰依と信心の選択、③文字と文書の契約、④市場と商業の規範、それぞれの意思に深くかかわった「正直」論(正直の言葉を用いて道理を述べること)は、個人・イエ・集団を横に繋ぎ、身分や階級を縦に貫く〈社会紐帯〉として、人間(世間)の秩序を維持する役割を果たしていたからであろう。

欲念をそぎ落として、正直に生きるのは今も昔も難しい。誠実や正直を繰り返す『学習指導要領』も宜なるかな、歟。

『大漢和辞典』修訂版 諸橋轍次 大修館書店 1984-1986

『日本国語大辞典』第2版 小学館 2000-2002

『岩波仏教辞典』第3版 中村元 岩波書店 2023

『現代倫理学事典』大庭健 弘文堂 2006

今回の研究余瀝で紹介のありました、これらの辞典・事典はいずれも図書館 3F レファレンス資料コーナーにあります。ぜひ、実際に確認してみましょう。

図書館員



のカバン



↑ちなみに今読んでいるのは『サボる哲学』 出版新 栗原康 著/NHK 出版新書(2021)です。



(図書館員・イ)馬柄です。この形が使いやすいくて気に入っています。財布、定期券入れ、ペンケースと電車とかで読むような本がだいたいいつも入っています。あとは、目にいいサプリメント！図書館員は視力落ちがちなので。雑誌の付録のエコバッグもよく使います。ほかに、マスク、手帳、金色の化粧ポーチなどが入っています。あんまり図書館員っぽいのが入ってないかな。すみません。

(図書館員・ロ)こちらはサブバッグです。主に弁当とかお菓子が入っています。

最近ちよとカフェインの取り過ぎを懸念してまして、スティックタイプの

インスタントコーヒーを半分だけ淹れるんですが、余った半分を留めておくための目玉クリップを付けています。ちなみに、GALEは海外出版社の名前です。メインのカバンはこれといったものは入っていないですね。自転車に乗るのでショルダータイプにするくらいのことわりしかありません。図書館員っぽくなくてすみません。



(図書館員・ハ)サブバッグです。ガチャガチャのポーチで小物を整理しています。腰痛対策グッズ、モバイルバッテリーは必須です。私のiPhone8は終日充電もたないので…。あとは編物の道具も入れがちです。カバンが好きで色々使っていますが、サブバッグはお手頃な価格帯で揃えています。これも500円くらいだった記憶です。メインのカバンにはサイフとタブレットしか入れません。なんか、図書館員っぽくないですね。すみません。



第7回

図書館員の狂騒曲

Librarian Rhapsody

ダイジェスト版



コイケ

ご出版おめでとうございます。



子金治

ありがとうございます。

拙著が発売になりました。



ライブラリアン・ラプソディ

八巻千穂 著

郵研社 2024.10

Now on sale



いいですね、^{せっちょ}“拙著”。^{リアル}現実で使ったことないです。



フィクション
空想ではあると？



…(考え中)…ないですね。



こちらはwebで連載しているコラムをもとにしたものですよ。



前半はそう。でも後半のブックレビュー部分は丸々書き下ろしだから、大変だったよ。



子金治さんのレファレンス資料好きがにじみ出るラインナップでしたね。



やっぱりレファ本は最高だよ。この世の宝!! そしてあらゆるジャンルで辞書や図鑑が出版されているんだよ。これは出版社の努力の賜物だと思う。



一言一句同意します。



出版社、著者、印刷・製本会社すべてに感謝を捧げます。



本を出版している図書館関係者って結構いますよね。



うん。図書館学系が一番多いだろうけど、エッセイとかまちづくりとかもね。



福井県立図書館の『100万回死んだねこ』がヒットしたのは記憶に新しいです。



それ、こないだ文庫版も出たしね！

Amazon のレビュー数717 件だってよ。
(2024/12/13 時点)



この本、掲載されている書影(本の表紙画像)がイラストなんですよ。これは出版社各社にそういう許諾を申し入れたってことですよ。



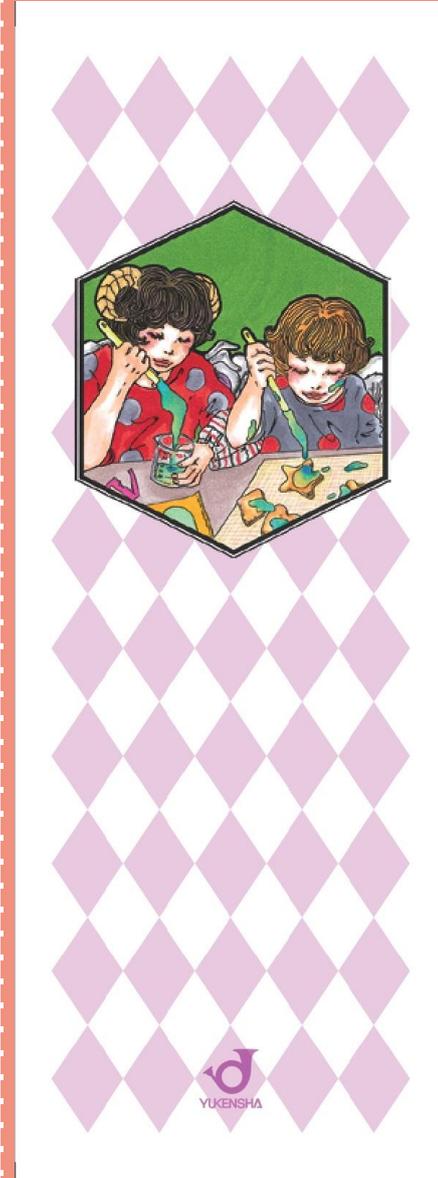
すごいな。ちなみに今回こちらに掲載している私の本の書影は私がサクッと連絡して許諾もらいました。



よっ! さすが拙著!!



つづきは web で



郵研社さんのご厚意で書籍封入の葉を掲載します。切って使おう!



誰かしら？
シリーズ 3

じゅぞう 寿像



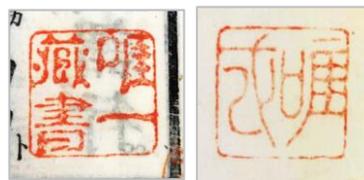
大学の建学の精神、『行学一如(ぎょうがくいちによ)』(学業も実践も本は一つ)と、教育理念である『自利・利他円満』(支え合い、ともに幸せに)とが、ホームページには書かれている。このページには、松の木の下に鎮座する「棟方老師寿像」と記された胸像の写真がある。まさに大学の精神と理念を表す人物ということ(でしょ!?)。では棟方老師とはどんな人物？

棟方老師こと棟方唯一(むなかた ゆいいつ)師は、大正13年7月本学の前身である曹洞宗第二中学林に林長として着任した。この直前の5月に中学林は校舎、雨天体操場、図書教具など全焼するという悲劇に見舞われており、この復興事業のために選任されたのである。さて、校内や地元の意見をまとめ、校舎の移転改築を決断、佐久間伯爵家より譲渡された西山を候補地として、校舎の移転、その資金調達などに奔走、しかし大正末年から昭和初頭にかけての経済界の不況により事業は難航し、唯一師は何度も私財を投じて施設を再建させたのである。こうした師の功績を称え、昭和12年に同窓会によって上記の寿像が安置された。

また、唯一師は青森県における更生保護事業の先覚者として、免囚保護会である「仏教慈暉会」を設立し、「市内を托鉢したり、寄金箱を設けて資金を集めたり、自分の食事を切りつめるなど刻苦隠忍の生活を続けながら」(『更生保護史の人びと』よ

り)刑務所から釈放された者の指導・保護に努めたという。その他、師は宗徳寺(弘前市)、大川寺(秋田県大曲市)、龍泉寺(五所川原市)を再建するという偉業をなし遂げ、昭和18年1月に大川寺にてその生涯を終えたのである。

本学図書館には「唯一蔵書」「唯式」と蔵書印のある和漢書が数十冊ある。唯一師の志と精神は、今なお蔵書という形で生きている。(図書館 八巻千穂)

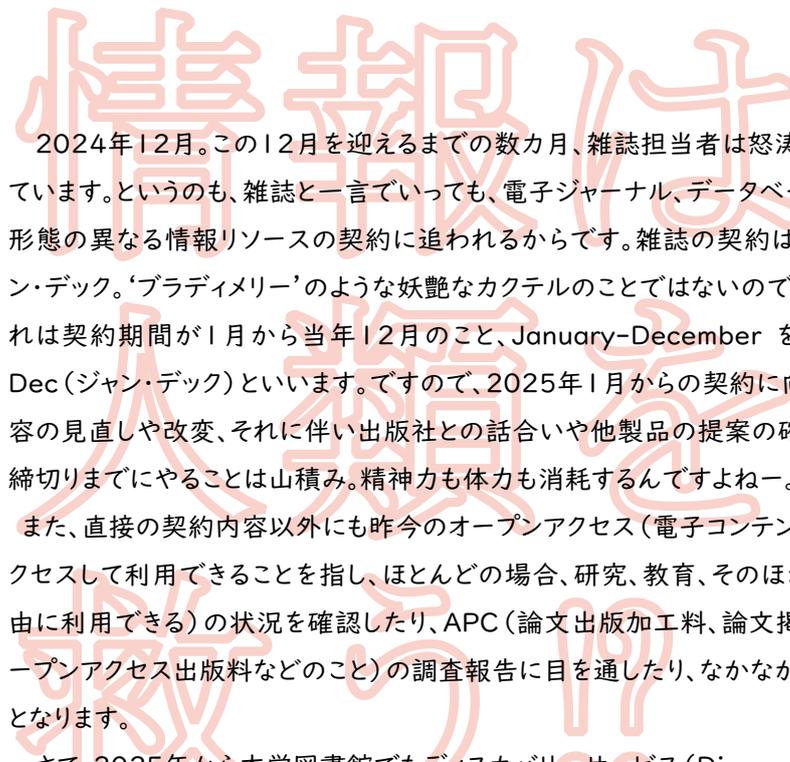


お元気でしたか？ 38号以来ですね。今日はその続きです。前回の「動向」と「現状」を読んでいないと話の流れがわからないと思いますので、図書館 HP で公開されている『としょかんぼう』のバックナンバーより見てきてください。

去る10月31日、ついに NACSIS-CAT で NCR2018が適用開始されました。かなり前から適用に向けての動きはありましたが、昨年冬にマニュアル案が公開されてから一気にここまで来た印象です。この約一年の私の動きをご紹介します。2023年12月「適用細則案」「目録情報の基準案」「コーディングマニュアル案」の3つが公開されました。PDF で計 635pです。翌2024年2月に追加の案と変更点の計 629pが公開され、適用に関する説明会に参加しました。ここでシステムの変更はなしとの発言がっ！つまりデータの型(フォーマット)は変わらないということです。これはなかなか厳しい話です。山から採ってきた葡萄でシャインマスカットのタルトを作るようなものです。でもまあ仕方ないですね。変更がないとはいえ、コードの追加や用語の変更がありましたので、これはシステムベンダーからの連絡待ちとしました。6月に NII 学術情報基盤オープンフォーラムで再度説明会があり追加情報が発表されました。7月、システムベンダーよりアップデートについての打診があり、8月、アップデート項目のリストをもらいます。そして9月9日ついに「目録情報の基準」「コーディングマニュアル」の正式版が公開されました。これは HTML での公開なのでひたすらモニターを注視し内容を確認していきます。9月10日、システムのアップデートをしてもらい……翌朝出勤すると、なんと資料検索が全くできない状態に。システムベンダーに即連絡即復旧で一安心。9月13日適用開始前の最後の説明会に参加。ここでパワポ資料141枚を見せられ解説していただき最終確認を。10月1日「適用細則」の正式版412pが公開され、急いで目を通します。もちろん適宜 NCR2018(761p)も確認します。

こうして迎えた10月31日。しかし、既存の書誌は旧マニュアル対象のため、作業中の資料は該当せず。本格的に実践するのは年明けくらいですかね。ということで、私たちの戦いはまだ続きます。みんな、ぜひ支援してくれよな！

(図書館 堀慧子)



2024年12月。この12月を迎えるまでの数カ月、雑誌担当者は怒涛の日々を送っています。というのも、雑誌と一言でいっても、電子ジャーナル、データベース、冊子体と形態の異なる情報リソースの契約に追われるからです。雑誌の契約は基本的にジャン・デック。‘ブラディメリー’のような妖艶なカクテルのことではないのであしからず。これは契約期間が1月から当年12月のこと、January-December を訳して Jan-Dec (ジャン・デック) といいます。ですので、2025年1月からの契約に向けて、契約内容の見直しや改変、それに伴い出版社との話し合いや他製品の提案の確認など、契約締切りまでにやることは山積み。精神力も体力も消耗するんですよー。

また、直接の契約内容以外にも昨今のオープンアクセス（電子コンテンツに無料でアクセスして利用できることを指し、ほとんどの場合、研究、教育、そのほかの目的で自由に利用できる）の状況を確認したり、APC（論文出版加工料、論文掲載加工料、オープンアクセス出版料などのこと）の調査報告に目を通したり、なかなかハードな業務となります。

さて、2025年から本学図書館でもディスカバリーサービス（Discovery Service）の導入を予定しています。ディスカバリーサービスとは、OPAC に登録されている資料を含め、契約している電子ジャーナルやデータベース、電子ブックといった様々な電子資料をまとめて検索できるとも便利なツールです。探している情報の単語やキーワードを入れるだけで、即座に様々な媒体の情報が入手できる優れたもの。ディスカバリーサービスは全世界的な広がりを見せています。

巷にあふれる情報から、正確で鮮度の高い情報をいかにスピーディに収集するか、その収集方法の重要性が増しています。それらを整備するのも図書館の仕事の一つ。安心して存分に情報と戯れてほしい！と思う今日この頃です。

（図書館 八巻千穂）



今回のブックレビューは門脇佳代子准教授に、研究余瀝を館長の鍛代敏雄教授に執筆いただきました。ご協力、誠にありがとうございました。



図書館
HP